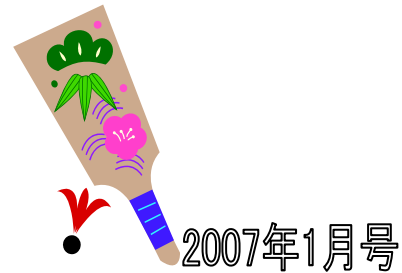


西尾雅枝社会保険労務士事務所ニュースレター

占出山町だより



明けましておめでとうございます。皆様良いお正月をお迎えになったことと存じます。

今年もどうかよろしく願い申し上げます。

さて、1月のニュースレターは、いよいよ2007年に始まる団塊の世代の定年～60歳からの生き方についての所感でございます。



1月号目次

☆いよいよ2007年問題が目の前に



☆ いよいよ2007年問題が目の前に

2007年から、団塊の世代が60歳を迎えます。

●団塊の世代と定年

従来、一般の会社の定年年齢は60歳が殆どでした。

2006年の「高齢者雇用安定法」の改正により、2007年4月からは定年年齢が段階的に引き上げられ、2014年4月以降65歳以下の定年は認められなくなります。これは、団塊の世代の大量退職を控え、厚生年金の支給開始年齢が引き上げられつつあることとの兼ね合いから生まれた措置であるともいえます。

そして、今の60歳はとっても元気でまだまだ働けるから、しかもローンや子供の学費等働かねばならない方もいるという背景があるからです。

しかし、歌舞伎小道具の藤浪小道具株式会社のように、本人に働く意欲があれば定年は69歳、その後の雇用も可能、人事査定や考課はなしという会社はまれです。

定年年齢の引上げに関しては、即65歳までとすると、継続雇用制度を導入するところは少なく、再雇用制度を導入し、裁定や考課により再雇用する人を選別しているところが多いようです。制度は導入されても、60歳以降働く場は少ないのが現実です。

●団塊の世代ヒストリー

第二次世界大戦で敗戦した日本に生まれたこの世代は、入試、就職と常に競争の中を生きてきました。

(裏面へ続く)

アメリカ文化に憧れ、アメリカンポップス、ビートルズを聴き、ミニスカートやジーンズを着こなした世代でもあります。

また、職場に導入されたコンピュータにも殆どの人が食いつき、キーボードぐらいは打てる世代でもあります。

高度成長期の中で、企業戦士と呼ばれ、寝ずに働き、バブル経済を支えました。しかし、バブルがはじけた後は、激しいリストラの嵐にまともにぶつかりました。

この世代が、会社から開放されたとき、何を考え、どう動くのでしょうか？

●団塊の世代の生きる道

野村総研の調査結果によると、団塊の世代の約8割が60歳以降も働きたいと希望し、そのうちの15%は起業も考えているということです。

また、着目すべき点は、その「仕事」に社会貢献も含めている点です。

●西尾が思うこと

60歳を迎え、再雇用で会社に残り働き続ける道を選択する方、退社して新たな道を歩くことを選択した方、様々な決断があります。

団塊の世代に一番ふさわしくない言葉は、「老後」そして「セカンドライフ」だと思います。

団塊の世代の60歳からの生活は、会社から脱出、本当の自分で生きていく生活

「リアルライフ」こそ、この世代にふさわしい言葉ではないかと思っています。

西尾雅枝社会保険事務所では、各種年金や公的保険制度のご相談をお受けしています。機密性のある独立した相談スペースで、秘密厳守でお話を伺います。お気軽にご相談下さい。

どんなことでも、どんなときでも、お気軽にご相談ください。

社会保険労務士・年金コンサルタント&ファイナンシャルプランナー

西尾 雅枝

西尾雅枝社会保険労務士事務所

電話&ファクス(075)241-4586

メール nishio@nishio-sr.com

ホームページオープン！アクセスはこちらから <http://www.nishio-sr.com>

営業時間 午前9時～午後5時30分（日曜・祝日定休日）

〒604-8155 京都市中京区錦小路通室町東入 占出山町308

ヤマチュウビル2階 N10

阪急京都線「烏丸駅」、市営地下鉄「四条駅」

四条烏丸バスターミナルからいずれも徒歩2分

